

18) 整形外科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科スタッフ

市村 正一（診療科長、教授）

森井 健司（准教授）

小寺 正純（講師）

2) 常勤、非常勤医師数

常勤医：22名（教授1名、准教授1名、講師1名、助教5名、任期助教6名、
医員4名、後期臨床研修医4名）

非常勤医：24名（関連病院より）

3) 指導医、専門医

日本整形外科学会専門医：26名

日本整形外科学会スポーツ認定医：8名

日本整形外科学会リウマチ認定医：7名

日本整形外科学会脊椎脊髄病医：6名

日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術技術認定医：1名

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医：5名

日本体育協会スポーツ認定医：1名

日本感染症学会ICD：2名

4) 外来診療の実績

当科は、多摩地区唯一の医学部に併設された付属病院の整形外科であり、診療、研究、教育と大きな役割を担っている。特に診療については脊椎脊髄疾患、骨軟部腫瘍、関節疾患など、より高度な運動器疾患を診療する体制をとっており、日々高度な手術治療を提供出来るよう努力している。また当院は高度救命救急医療センターを併設しており多くの多発外傷の患者さんにも対応できるようスタッフを配置し、1次から3次救急まで幅広く24時間対応可能な診療体制としている。

外来は、初診担当医3診と各専門領域の専門外来担当医4診で、紹介状持参の有無に関わらず対応している。初診医の判断により必要な諸検査を行い、手術治療が必要であれば専門外来担当医の再診を予約受診している。また地域連携室を経由して近隣の医療機関から直接専門外来担当医への予約も受けている。保存的治療を継続する場合、近隣の関連施設に紹介するなど地域医療連携を有効に活用し患者さんに適切な治療を提供している。

専門外来として、脊椎脊髄病センターを2009年に開設し、脊椎内視鏡による低侵襲手術から難度の高い高度脊柱変形手術まで行っている。その他、骨粗鬆症外来、小児整形外来、スポーツ外来など、より専門性の高い外来部門も対応している。

（専門外来）

● 脊椎・脊髄外科

市村

長谷川（雅）、高橋、佐野、長谷川（淳）、佐藤俊輔

● 関節外科

膝関節；佐藤、坂倉、片山

股関節；小寺、井上

肩関節；坂倉

● スポーツ障害

林、佐藤

- 骨軟部腫瘍外科
森井、青柳
- 手外科
丸野
- 骨粗鬆症
市村、長谷川（雅）
- 小児整形外科
小寺
- 外傷
大畑、稲田

外来患者診療統計

外来患者総数：37,440名
 新患者数：6,799名
 紹介患者数：1,652名
 紹介率：50.6%
 （いずれも救急患者含む）

5) 入院診療実績（平成26年4～27年3月）

新規入院患者数：1,256名
 死亡患者数：8名
 剖検数：1名
 平均在院日数：12.2日
 手術総件数1,065件（表1. 手術一覧）

2. 先進的医療への取り組み

椎間板ヘルニアに対する低侵襲手術である内視鏡下ヘルニア摘出術（MED）を導入し、平成22年度からは腰部脊柱管狭窄症に対しても内視鏡下椎弓切除術を導入し、術後創痛の軽減、入院期間の短縮などより低侵襲化を計っている。

脊椎変性疾患、外傷や人工膝関節置換術においてより正確なインプラントの設置を目的にナビゲーションシステムを導入し、より正確で安全な手術を心がけている。特に脊柱変形に対しては、側方侵入椎体間固定（OLIF）と経皮的後方固定（PPS）を導入し低侵襲化を達成している。

さらに、医療安全の観点から脊髄疾患における術中脊髄モニタリングを駆使し神経に愛護的な手術療法を実施している。

表2、疾患別の代表術式と件数

3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数

腰椎椎間板ヘルニアに対する低侵襲手術である内視鏡下ヘルニア摘出術（MED）を導入している。平成23年度からは腰部脊柱管狭窄症に対しても内視鏡下椎弓切除術（MEL）を導入し、術後創痛の軽減、入院期間の短縮などより低侵襲化を計っている。

内視鏡下ヘルニア摘出術（MED）の施行例数と割合

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
腰椎椎間板ヘルニア	74	70	53	53	45
MED	56	51	35	37	26
施行率（%）	75.7	72.9	66.0	69.8	57.8

内視鏡下椎弓切除術（MEL）施行例数と割合

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
腰部脊柱管狭窄症	111	132	99	98	127
MEL	10	8	8	7	6
施行率（%）	9.0	6.1	8.1	7.1	4.7

4. 地域への貢献

三鷹市、調布市、武蔵野市、府中市、小金井市医師会と年1回病診連携の会を行い、積極的に地域医療との連携をはかっている。

また、多摩地区で様々な研究会を開催し、近隣の医療機関の先生方に最新の情報を提供している。

- ・多摩整形外科医会（年2回）
- ・多摩リウマチ研究会（年2回）
- ・多摩骨軟部腫瘍研究会（年2回）
- ・多摩骨代謝研究会（年1回）
- ・多摩脊椎脊髄カンファレンス（年2回）
- ・その他研究会多数

表1 整形外科手術件数の推移

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
件数	912	947	1,086	1,013	1,020	1,121	1,065

表1 平成27年度手術一覧

部位	急性疾患 外傷	慢性疾患	計
脊椎脊髄	8	283	291
骨盤	6	1	7
鎖骨・肩鎖関節	3		3
肩関節・上腕骨近位	7	45	52
上腕骨骨幹	3		3
6. 肘関節周囲	19		19
7. 前腕骨幹	6		6
8. 手関節・手根骨・指骨	6	40	46
9. 股関節	30	79	109
10. 大腿骨骨幹	4		4
11. 膝関節周囲	2	188	190
12. 膝蓋骨	5	0	5
13. 下腿骨骨幹	19		19
14. 足関節周囲	21		21
15. 足	5		5
16. 腫瘍切除		119	119
17. 切断		2	2
18. 離断		2	2
19. 抜釘術		71	71
20. その他			91
総件数	144	921	1,065

総数に対する割合 (%)	13.5	86.5	100.0
--------------	------	------	-------

表2 疾患別の代表術式と件数（平成21年度～）

1. 脊椎脊髄疾患

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
脊椎疾患手術件数	278	265	267	271	291
A. 頸髄症	33	29	45	30	28
頸椎後縦靭帯骨化症	9	5	10	5	8
1. 椎弓形成術	43	30	41	41	21
2. 前方固定術	7	3	6	6	13
B. 腰椎椎間板ヘルニア	73	70	53	53	45
1. MED（内視鏡下）	56	51	35	37	26
2. LOVE法	15	19	10	8	12
C. 腰部脊柱管狭窄症	96	132	113	98	127
1. 椎弓形成、切除	70	61	50	52	72
2. 固定術	21	63	55	73	44
3. MEL（内視鏡）	5	8	8	7	6
C. 脊髄腫瘍	10	18	10	13	13
D. 脊柱変形	0	3	9	16	17

2. 関節疾患（外傷を除く）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
膝総計	178	145	148	215	190
人工膝関節	85	78	116	103	75
膝靭帯再建	18	25	32	53	47
股関節総計	118	116	84	72	109
人工股関節	89	76	78	75	71
肩総計	30	22	21	19	45
肩（鏡視下）	27	18	20	19	45

3. 骨軟部腫瘍

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
A. 悪性骨腫瘍	5	8	14	25	15
B. 悪性軟部腫瘍	41	13	22	41	44